

傳小聖之印

絶色紙

301
10

帳入



始



繼

色

紙

釋文

全

傳 小野道風書

20/10



傳小野道風書 繼色紙解題並釋文

解題

繫色紙とは現在の状態からつけられた名稱である。即ち色紙形の料紙を二枚續けて一首の歌を散らし書きにしたかの如くに見える。然も正極粘葉帖であつたのである。それは大聖寺前田家の舊藏で一帖に綴つてゐたものを見れば分明であるが今は諸家に分割せられた。この帖は全部で十六首半の歌が書寫されてゐた。現在どれ丈の數が傳はうせむるかを調査するに、この一巻であつたものゝ他に諸家に散在して秘藏のものを加へれば、全體で歌數三十有餘首に達するであらう。

料紙は鳥の子、白、紫、藍、黄、赭等あり。筆者は古くから道風と定められてゐるが、道風筆としての何等の證左もないやうである。これに類似

した書を擧げれば、三十六人集中の信明集が稍同一系統に見えるが、單に運筆が老人の手になりたるが如き點のみで、決して同一人の筆蹟と定める事は出來ない。

書風は獨草風を脱し、連綿の妙を現はせるのみならず、散らし方に於ては、傳貫之筆寸松庵、傳行成筆升色紙と共に、古筆中の王者といふべきである。即ち字々間架結構の如き筆法に意を用ひず、天真爛漫、敢て技巧の末に流れず、瀟洒、古淡老蒼、古朴、磊落を兼ね備へ、然も品位の高いのは、萬鈞の重みあるものである。

道風の假名として、他に小島切、八幡切、本阿彌切等があるが、これと比較して同一の筆と見るべきは一つもない。只三十六人集中の信明集は前述の如く同系をもつて目すべきであるが、繼色紙はこれに比較して技倆に於て、遙かに其の右に出て居るものといへる。強いて時代を定めやうとすれば平安朝の末期、元永、保延附近とするより他ないであらう。

釋文

舞
三
松山
なみ先
こ盈那
春衛能
開裳堂者
故ろ乎わ
てあ堂しこ
きみ乎於支

布ふむ
利り免め
於の可か
能の
都づ曾そ手を堂た連れこ山あ
累る可か勢せ支き帝て可か
年ねきつ俱く堂た悲ひ
く可か能の
うろ

り介け利り
こぬめふり閑よ
悲ひ人爾にく希けく能の
し盤は見可か禮れこな
家かせの所可か
のあ盤は
なくも夜や可か
耳く里りみ見み
のしきのう難な徒々
しめ那な堂た於か能の者は本は
らきのうき無む々
那な堂た於か能の者は本は

那^な亞^あ寸^すとなく本^ほ濃^の
流^る可^かき^く爾^に可^かより
閑^{かん}須^すら^き那^な本^ほ也^も
裳^もの^のとし能^の

閑^{かん}夜^よ悲^ひ三^みは勢^ぜ
春^{はる}ま^ま介^{すけ}て^てな^な堂^だ連^{れん}支^し
見^みさ^く禮^{れい}曾^そを^を可^かう^うつ^つ
良^ら家^や故^こ天^{てん}盤^{ばん}盤^{ばん}

二に爾^ヒこ千^ち多^か勢^セあ
し余^よ那^な末^タ々^タ春^ハ
毛^モ里^リろ悲^ヒ母^モ能^カ可^カ
の者^ハ支^キ濃^ハ々^タ
越^タ君^う盤^は

つら能^ア阿^ア遣^ケこのよひのあ
ありのつき利^ト

なし八^ハ於^ヒ君^を可^カ羅^ラ堂^タき
まつ支^キを天^テあ^ハ盤^ハめ所^カ利^カ
ひと无^ハも那^ナ布^フ闇^カよの可^カ
我^ガ奈^ナ爾^ヒ我^ガ爾^ヒ

者^はま見^みき可^か闇^かこつ
なし春^は可^かみ希^けののく
可^かけ家^か盤^はお无^む盤^は
氣^け爾^じあれ裳^も耳^じの
と

びよ須^す
利^り惠^え
佐^さ遍^{へん}
耳^じの

者^は美^みわ^れ悲^ひら^ま
多^た致^め沙^さ萬^ま
ち^の激^げ於^い毛^も
家^かま^いく^の佐^さく^く
能^の能^の佐^さく^く
那^な那^な那^な

千^ち東^{とう}ま^ま類^る天^{てん}
ら^ら者^は者^は者^は天^{てん}
耳^じ爾^じ乎^い佐^さ毛^も
沙^さ於^い毛^も佐^さ毛^も
萬^ま毛^も佐^さ毛^もの^の那^な
移^い布^ふ二^に



あめ耳によ利堂
きさい可か閑か徒つみこ悲も
流る可かへ里り連れ爾爾悲も
邊々春ころ處沙沙起耳に
う越らも起耳に

山あ者はちしま
ゆ木ゆ支支ふれ盤は
いつれ所さ支二け
れをさ支二け
る

をとめ渡^フきとち^シ餘^ス毛^モ非^ヒの^シ家^カ可^カ春^ハ
きとち^シ餘^ス布^フ可^カ勢^セ俱^ク
久^ク希^ヒ可^カま^ナな^シ
月^ツ毛^モ梨^リ良^ラ多^タつ
光^ヒ可^カの^シあ^リ能^ヌ
俱^クい^シ希^ヒ飛^ヒよ^リ
爾^ニ那^ナ盤^ハ

夜^アあ^リ可^カる^シ須^ス那^ナと^ツ
み^ミ連^ハ累^ル者^ハ々^ハ阿^ハ閑^カ度^シ
俱^く本^ハな^シ山^ハ木^キ寸^シ
見^カ連^ハし^シ見^カ連^ハ
み^ミの^シみ^ミの^シ
者^ハ介^カふ^シ者^ハ介^カふ^シ

盤は者は
遊那の
きの爾
盤は者
遊那の
きの爾
萬もろ
へ登とあ
はおらく
母し可
登とあ
はおらく
母し可
い者毛非
い者毛非
くるの天と毛
くるの天と毛
をし移い盤
をし移い盤
も

牟末堂年
支ね帝
氣を徒
か余
多所
あ
め
し
度
無
闇堂
し
八
か
か
へ
の
余
所
さ
ゆ
見
移

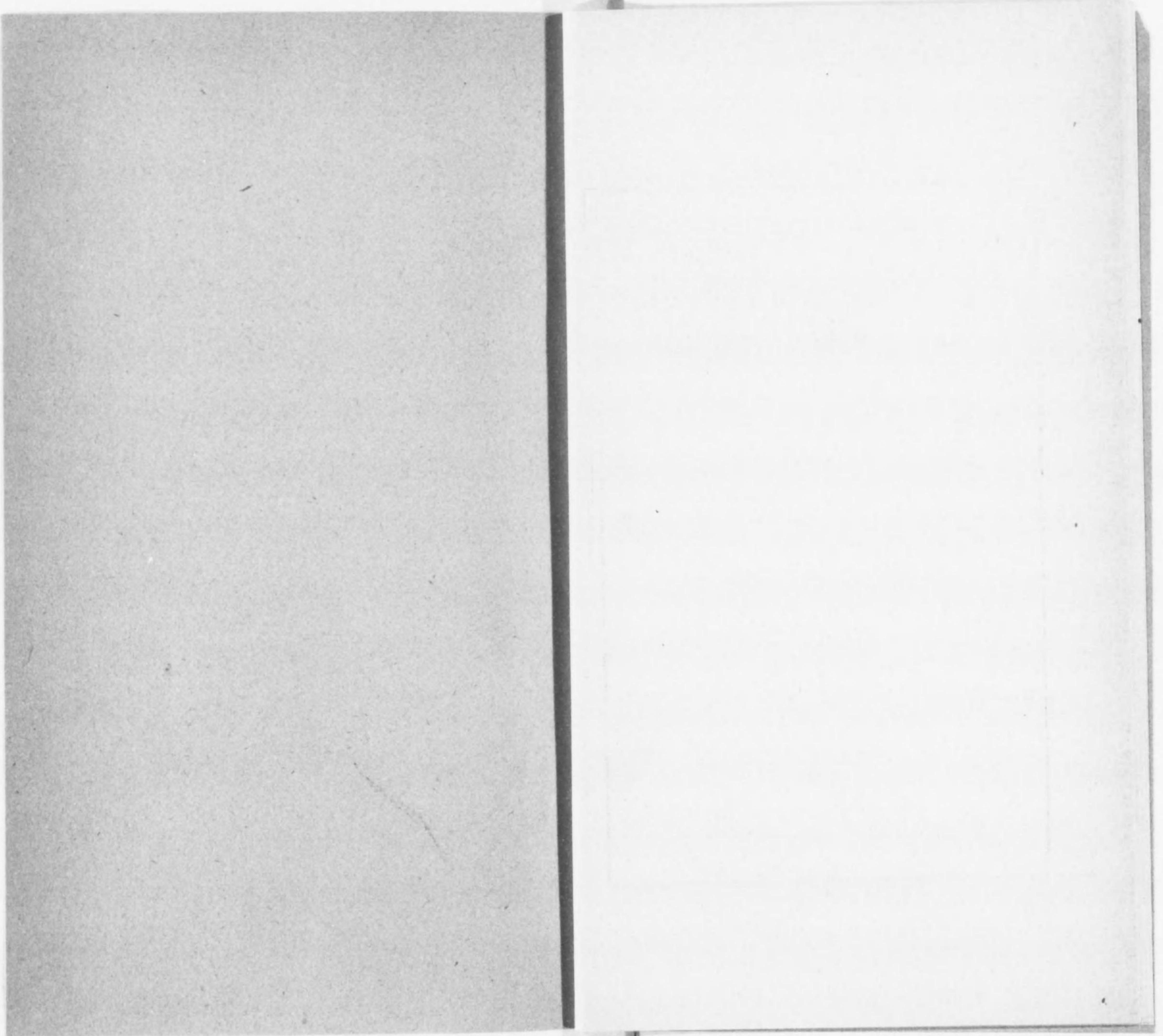
神可
きの見
利へ里
なの堂
里し 介
類よ風
の堂毛
しし 風曾
の耳年
ゆく 可曾
に耳堂
能見登
能那堂
の見能
の見能

水曾
満み
つ 閑希
みし 禮盤
沙沙
む悲遣
能能
ら可
の遣可
の見能
の見能

ぬい悲しき能の
らん久め松の
へ

春久毛わ
み那ひれ
の里さ美
盈ぬし帝

介あしむ
りひ遣呂み
二梨耳の
美木山



昭和十年十一月廿一日印刷 定價金貳圓參拾錢

昭和十年十一月廿五日發行

紙色編
(全)

編輯者 東京市下谷區中根原町七二六
武田基一會
代製者 東京市下谷區中根原町七二六
武田基一會

發行人

武田基一會

印制人

武田基一會

黑川秀一會

藏

發行所 東京市下谷區中根原町七二六

武田基一會

黑川秀一會

藏

一

武田基一會

黑川秀一會

藏



高麗
金
正
大
王



李成道
畫

卷之三

りふくね
りふくね

のじ
りか
まほ
れな

う
ま
い
じ
ん

あ
か
く
け
み



むかの月

あわだ

ゆうひ

ま

うきよ

たと

わさ

t i u R m

さき

之
（5）
斯
東
之
之
斯
東

か
く
う
そ
う
し
ま
る

か
う
そ
う
し
ま
る

かまひや
くまのや

うとうと
うとうと

五
年
之
後

此
事

將
來
必
有
大
變

ي

水
木
火
土
金
石

金
木
水
火
土
石

うめ
あい
玉ねぎ

まくら

蒙古の

まのじ

もと

むか

うふ

うま

山の
ゆうねん

かくしき
にあ
けみあた

丁
日
月
火
水
木
金
土

正月の
お年玉

お年玉
を貰
う

あ
の
う
ち
み
ま
く

山中湖
十

はる、新月
みゆきの瀬を
ゆく
あひる
木

トコロハヤシ

ナガシマモモ

アラヤマヒ

カモ

ミツバチ

アサヒ

ミツバチ

あく

て

は

よし

よし

よし

よし

よし

よし

ゆき

ゆき

ゆき

あくゆえぬ
かまくら

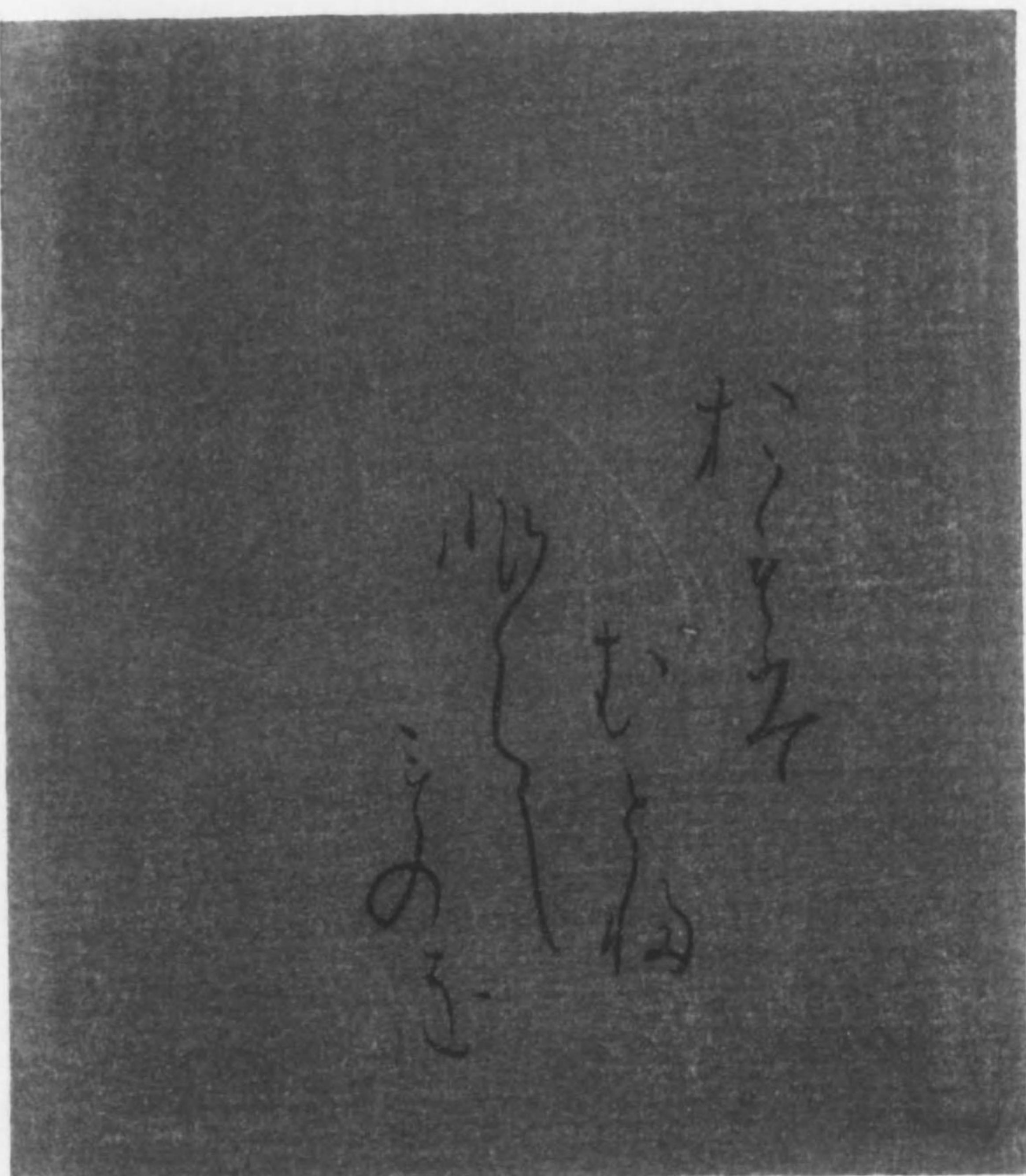
あくま
かまくら

露光量違いの為重複撮影

う
く
ま
よ
ひ
む
な

露光量違いの為重複撮影

うきいそ



は
る
か
よ

ま
る
い
る

相手の

うれしそう

おもむろ

おもむろ
うれしそう

おもむろ

蒙古文

蒙古文

おひこ
まほりあ
あゆみ

かわら
たかはし
かわら

三
二
一
四

七
六
五
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五

301

10

昭和十年十一月廿一日印刷定價金圓參拾錢
新色(全)
癡者かな名蹟全集刊行會
發行人武田基一
印刷人黒川秀
發行所 東京市下谷區小根町七二
武田基一
電話三五七〇六〇五四八七〇

終